

実を図るとともに、補習学習を実施し、基礎学力の確かな定着を目指します。さらに、不登校児童生徒の家庭を訪問する担当を配置し、これまでの以上の支援体制を整えます。教育環境の充実では、国が進めるGIGAスクール構想※に沿って学校のICT化※を進めるため、小中学校の通信ネットワーク環境の整備を実施します。



ICTを活用した授業

●「住んでよかった」

まちづくりの施策

子どもからお年寄りまで、誰もがいつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

まず、安心・安全な日常を守るため、昨年の台風19号を教訓に災害対策の一環として、災害情報や避難情報を確実に届けるための情報伝達手段の

拡充を行います。

また、緊急的に緑町の排水機場ポンプを増設するほか、西新町の流域貯留浸透事業、藤原町の雨水排水ポンプの設置など、各地区での出水対策を実施します。

次に、市民福祉の充実のため、高齢者インフルエンザ予防接種に続き、高齢者肺炎球菌の予防接種の自己負担額の引き下げを実施します。

また、市民サービスの利便性を向上させるため、全国の店舗で住民票等が取得できるコンビニ交付を開始します。

このほか、インフラ整備では、道路や橋りよの長寿命化対策を計画的に進めていきます。

また、ごみ処理の新たなスタートを切るため、今後の方向性や施設整備を検討するご



緑町排水機場

み処理基本構想を策定します。ごみ処理は、市民生活に密着した非常に重要なサービスであり、コスト削減や利便性など、あらゆる面から検証を行い、より良いごみ処理行政を実現していきます。

●「行ってみたい」

まちづくりの施策

古代から現代に至るまで多彩な歴史に彩られた本市の歴史資源、文化資源を最大限に生かしたまちづくりを進めることで、まちの活性化やにぎわいの創出を実現していきます。

まず、観光協会を民営化し、稼ぐ観光地づくりを積極的に推進します。具体的には、民営化に向けた組織づくりや観光情報館がらつとぎょうだの改修を行うほか、観光コンテンツの開発、情報発信やプロモーション強化を実施します。

また、八幡通りにおいて、まち並み景観形成先導モデル事業を継続し、行田らしいまち並みの形成を促進するとともに、新たな取り組みとして、軽トラ朝市を発展させた賑わい市を開催し、さらなるにぎわいを創出していきます。

また、八幡通りにおいて、まち並み景観形成先導モデル事業を継続し、行田らしいまち並みの形成を促進するとともに、新たな取り組みとして、軽トラ朝市を発展させた賑わい市を開催し、さらなるにぎわいを創出していきます。



観光情報館がらつとぎょうだ

【主な質疑】

○運転免許証自主返納者支援事業

問 運転免許証自主返納者に対して、タクシー券を交付しているが、タクシー券を配付することが、返納の動機付けになっているのか。また、デマンドタクシーに利用することはできるのか。

答 制度を導入した平成29年度の運転免許証自主返納者は、前年度比1.41倍で一定の効果があつたと認識しているが、平成30年度以降の返納者数は横ばいとなっている。また、デマンドタクシーは75歳以上の高齢者及び障害者の交通手段を確保することが目的であり、本支援事業は、交通事故を減らすための制度であることから、重複利用はできない。

○商工センター改修工事

問 改修工事の理由と内容は、

答 令和2年度に行田市観光協会を民営化し、観光DMO※を設立するのに伴い、商工センター1階に事務所を整備するほか、がらつとぎょうだの利便性向上を図るため、外部階段の整備や店舗出入口などの改修工事を行うものである。

○攻めの農業支援事業

問 特産品として期待できる農産物の生産や既存の生産方法を改善するための新たな取り組みなどを行う農業者に研究開発費等を補助するものだが、本事業の進捗状況は、

答 平成28年度から実施しており、これまでに13件の農業者に対し補助金を交付している。主なものとして、冷凍枝豆の加工場、蜂蜜の加工品開発、長ネギ掘り機、ニンジン収穫機などの事業を支援している。

○ごみ処理基本構想の策定

問 基本構想は、何についてどこまで策定するのか。また、完成はいつになるのか。

答 今後進めていく新ごみ処理施設の広域化の検討をはじめ、新施設で処理するごみの分別区分や施設規模、余熱利